

中期目標の達成状況に関する評価結果

富山大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	

評価結果

《概要》	5
《本文》	7
《判定結果一覧表》	15

法人の特徴

— 理念 —

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与する。

— 目標 —

富山大学が全学的に重視する目標は、教養教育と専門教育の充実を通じて、幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成することである。本学の特色は知の東西融合を目指すことにあり、この点を生かしつつ、地域と世界の発展に寄与する先端的な研究を推進する。そして、東アジア地域をはじめ諸外国の教育研究機関と連携しつつ、国際的な教育・研究拠点となることを目指す。また、地域と時代の課題に積極的に取り組み、社会の要請に応える人材を養成し、産学官の連携と地域への生涯学習機会の提供などを通じて、地域社会への貢献を行っていく。

○教育 —高い使命感と創造力のある人材の育成—

- ・学士課程では、グローバルな知識基盤社会に貢献できる、豊かな人間性と創造的問題解決能力を持つ人材を育成するため、少人数・対話型教育の充実や ICT を活用した教育環境を拡充している。平成 30 年度から全 8 学部の新入生に対し、一元化した教養教育プログラムを提供する基本方針・ロードマップを機関決定し準備を進めている。また、新入生キャリアガイダンスからインターンシップ（国内・海外）までをつなぎ、学生の主体的・能動的な学びを促す体系的なキャリア教育を実施している。
- ・大学院課程では、各研究科・教育部で体系的で高度な専門教育を充実させるとともに、医療・福祉・製薬産業で求められるエンジニアを養成する「ファーマ・メディカルエンジニア養成コース」に代表される専門領域を横断する教育を実施し、21 世紀の多様な課題に果敢に挑戦し解決できる人材を育成している。

○研究 —地域と世界に向けて先端的研究情報の発信—

- ・医・薬・和漢医薬学総合研究所が連携し、西洋医薬学と東洋医薬学のパラダイムの調和を目指す「東西医薬学の融合」をキーワードに、富山県及び地域薬業界との連携や共同研究を進め、特色ある教育研究拠点の形成を推進している。伝統的なくすり産業の蓄積を基に世界の薬草を収集した民族薬物資料館は、こうした学術活動の成果の一つである。
- ・3,000m を超す日本アルプス・立山連峰と水深 1,000m の富山湾という起伏に富んだ地形を「地球環境縮図モデル」として、総合的な地球環境問題に取り組む研究拠点の形成を進めている。また、水素同位体科学研究センターでは、21 世紀の高密度エネルギー源として注目される核融合炉の実用化のため、燃料の制御と安全性確保に必須となる放射性同位体トリチウムの測定法の研究開発に取り組んでいる。
- ・人文科学分野では、東洋の知を求め続けた小泉八雲の蔵書「ヘルン文庫」研究の新たな可能性の模索や、県西部に多く残る伝統技能の伝承とその知的財産化、技能保有者の育成、伝統産業の現代化に継続的に取り組んでいる。

○社会連携 —地域と国際社会への貢献—

- ・「大学コンソーシアム富山」の幹事校として他機関と連携し、地域課題解決事業、高大連

携，産学官金ネットワーク会議等を通じて教育研究の向上と，高等教育機関の知的資源を有効活用した地域社会への貢献に取り組んでいる。

- ・製薬やアルミ関係の産業集積地帯である特性を生かし，新製品開発に向けた共同研究や地元の産学官が連携し，社会人の学び直しに取り組む「次世代スーパーエンジニア養成コース」を地域総がかりで実施している。
- ・地方創生事業を先駆ける取り組みとして，魚津三太郎塾，たかおか共創ビジネス研究所の活動を通じ，協働型地域活性化事業の地域リーダーを育成している。また，地域住民参加型医療システムを構築するため「地域医療再生マイスター養成講座」を開講し，医療従事者・行政職員・地域住民が参加する地域の人材育成を行っている。
- ・3大学統合前からの海外教育研究機関との大学間や部局間交流を拡充するほか，極東地域研究センターを中心に展開している北東アジア学術ネットワークを生かし，（１）社会と自然の融和，（２）文化と歴史の共有，（３）安定的な国際関係の構築，（４）地域全体の協力による持続的な発展，を描く「国際的な共生をめざす文化的・社会的基盤の教育研究拠点」の形成に取り組んでいる。

○運営 ー透明性の高い大学運営ー

- ・全学的に男女共同参画を推進する組織体制の強化に努め，男女共同参画担当の学長補佐を配置し，仕事と家庭の両立支援のための制度・事業を継続的に実施している。平成27年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択され，国際的視野を持ち高い実力を有する女性研究者の育成や，女性の上位職への登用に取り組んでいる。
- ・教育研究活動のきめ細やかな情報発信に努め，公式ウェブサイトは「全国サイト・ユーザビリティ調査2014 / 2015」において総合スコアランキングで1位となった。研究室紹介を放送する「富山大学キャンパスレポートTom's TV」や「富山大学ヒストリア」を制作し，YouTubeでも配信している。

[個性の伸長に向けた取組等]

- ・医薬理工系の大学院で，医学・薬学・理学・工学分野の相互連携により，ファーマ・メディカルエンジニア（PME）養成コースに代表される領域横断的な教育に取り組んでいる。また産業界と連携した教育プログラム開発やインターンシップ実習を取り入れたコースを充実させ，創造的な問題解決能力のある人材育成に取り組んだ。

（関連する中期計画）計画1－1－4－2

- ・自治体，企業等の多様なステークホルダーと協定締結を進め，魚津三太郎塾，たかおか共創ビジネス研究所，舟橋村官民連携子育てモデル造成事業等の事業を通じて地域の課題対応や地域社会の持続的な発展に向けた人材育成に取り組んだ。

（関連する中期計画）計画3－1－1－2

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

- ・東日本大震災被災者の入学検定料・授業料免除等の措置を実施した。（関連する中期計画）計画1－3－2－2
- ・震災直後にDMAT（災害医療派遣チーム）2チームを岩手県・福島県に派遣し，現地医療の初期支援を行ったほか，他機関との連携により非常食料や医薬品等の救援物資を供出した。その後，気仙沼市の地域医療支援として，医師・看護師・薬剤師等からなる7グループが1週間交代で赴任し，避難施設や医療機関で慢性期疾患対応，感染症対策，公衆衛生等活動を行った。また，人間発達科学部から臨床心理士（教員）2名，水素同位体科学研究センター等からは，放射線計測の専門家延べ21名が警戒区域内からの一時帰宅者や荷物等のスクリーニングを行った。

- ・岩手県陸前高田市を中心に、がれきの撤去、家屋の泥出しの片付け等を行うボランティア（富山県との連携）に、第4次派遣（5月11日～5月15日）から第26次派遣（10月26日～10月30日）まで学生53名が参加した。学内で募集した震災義援金約570万円は日本赤十字社への寄附と、実家等が被害にあった本学学生への救護金とした。
- ・放射線に関する正しい知識を持ってもらうため、大学のウェブサイトに「原発事故による放射線の影響等に関する問い合わせについて」を掲載し、社会の放射線に関する不安等に対する相談を受け付けたほか、平成24年度から「富山大学発 放射線に関する情報発信」と題して特別講演会を毎年開催した。（関連する中期計画）計画2－1－5－3

○学部・研究科等の構成（平成27年5月1日現在）

学部	人文学部, 人間発達科学部（人間発達科学研究実践総合センター）, 経済学部, 理学部, 医学部, 薬学部（薬用植物園）, 工学部, 芸術文化学部
研究科等	人文科学研究科, 人間発達科学研究科, 経済学研究科, 芸術文化科学研究科, 生命融合科学教育部, 医学薬学教育部, 理工学教育部, 医学薬学研究部, 理工学研究部
附置研究所	和漢医薬学総合研究所（民族薬物研究センター）
附属施設等	附属病院, 附属図書館, 国際交流センター, 保健管理センター
機構	<u>教育・学生支援機構</u> ：教育・学生支援企画室, アドミッションセンター, 教育推進センター, 学生支援センター, 就職・キャリア支援センター <u>研究推進機構</u> ：研究戦略室, 水素同位体科学研究センター, 極東地域研究センター, 産学連携推進センター, 研究推進総合支援センター <u>地域連携推進機構</u> ：地域連携戦略室, 生涯学習部門, 地域づくり・文化支援部門, 地域医療・保健支援部門
学内共同教育研究施設	総合情報基盤センター, 環境安全推進センター, 自然観察実習センター, 臨床研究・倫理センター
附属学校	附属幼稚園, 附属小学校, 附属中学校, 附属特別支援学校

○学生数及び教職員数（平成27年5月1日現在）

学生数	9,200名（学部学生8,141名, 大学院学生1,059名）
教職員	2,240名（教員870名, 附属学校教諭76名, 事務職員381名, 技術職員81名, 医療系職員832名）

（出典：富山大学概要）

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、富山大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
（Ⅰ） 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	8	
② 教育の実施体制等に関する目標	良好		3	1	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			3	
（Ⅱ） 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好		3	2	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			3	
（Ⅲ） その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好		2	2	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			3	

<主な特記すべき点>

個性の伸長に向けた取組

- 医学・薬学・理学・工学分野の境界を越えた領域横断的な専門性を有する人材を育成する目的で平成 18 年度に設置された生命融合科学教育部において、障害者が主体的に研究に参画できる環境整備として、点字ブロックの設置、バリアフリー化及び研究・生活相談担当教員の配置等、ハードとソフトの両面から支援を実施しており、4 名の障害者が平成 27 年度までに修了し、3 名の視覚障害者に博士の学位を授与している。また、工学、理学、医学、薬学の連携によって設置されたファーマ・メディカルエンジニア（PME）養成プログラムにおいて、異分野の大学院が連携した講義や、附属病院、和漢医薬学総合研究所、県の研究機関及び地元企業と連携した教育を実施しており、医用工学（医療に使う工学機器を開発する学問・産業）や製薬企業の生産部門等で活躍できる人材を養成している。（中期計画 1-1-4-2）
- 地域と世界に向かって開かれた大学として、地方自治体・地元企業と連携し、富山市から職員を地域連携推進員として受け入れ、富山市シティプロモーション事業へ参画している。また、地域課題を共有して課題解決に資する「魚津三太郎塾」の創設を契機に、その成果を市町村の枠を超えて地域移転した「たかおか共創ビジネス研究所」の創設、子育てしやすい環境づくりを目指す舟橋村官民連携子育てモデル造成事業の展開等、様々な地域との事業に全学的に関わり、地域活性化の中核拠点となっている。（中期計画 3-1-1-2）

<復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組>

- 東日本大震災被災者の入学検定料・授業料免除等の措置を実施した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

（Ⅰ） 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9項目）のうち、1項目が「良好」、8項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○領域横断的な大学院教育の推進

中期目標（小項目）「大学院課程 幅広い知識を基盤にした高い専門性を培い、高度専門職業人、あるいは教育研究者として、学術研究の進歩や地域・国際社会に貢献できる人材を育成する。」について、医学・薬学・理学・工学分野の境界を越えた領域横断的な専門性を有する人材を育成する目的で平成18年度に設置された生命融合科学教育部において、障害者が主体的に研究に参画できる環境整備として、点字ブロックの設置、バリアフリー化及び研究・生活相談担当教員の配置等、ハードとソフトの両面から支援を実施しており、4名の障害者が平成27年度までに修了し、3名の視覚障害者に博士の学位を授与している。また、工学、理学、医学、薬学の連携によって設置されたファーマ・メディカルエンジニア（PME）養成プログラムにおいて、異分野の大学院が連携した講義や、附属病院、和漢医薬学総合研究所、県の研究機関及び地元企業と連携した教育を実施しており、医用工学（医療に使う工学機器を開発する学問・産業）や製薬企業の生産部門等で活躍できる人材を養成している。（中期計画 1-1-4-2）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○教員人件費ポイント制の導入

中期目標(小項目)「質の高い専門教育の実施体制を整備する。」について、全学的に教員人件費ポイント制を導入することで、ポイント内であれば職階に関わらず教員の人事配置を行うことが容易となり、柔軟な教育体制を実現している。また、大学院の6研究科(教育部)・18専攻を中心に全学的な組織の見直しを実施し、特に平成23年度には大学の特徴を活かした芸術文化学研究科(修士課程)を設置、平成27年度には医学薬学教育部看護学専攻(博士後期課程)を設置し、さらに大学院教職実践開発研究科(教職大学院)の設置を申請するなど、教育組織の整備を進めている。(中期計画1-2-2-1)

(特色ある点)

○アンケートを踏まえた教育改善への取組

中期目標(小項目)「教育の質の改善のためのシステム等 教育の質を不断に改善するためのシステムを整備する。」について、授業評価アンケート及び卒業時の学生に対するアンケート調査における「外国語能力の修得が充分ではない」との回答結果を踏まえ、各学部において英語による専門科目の開設や、語学教育における口頭発表機会の増加、TOEICを用いた教材開発等に取り組み、教育内容の改善に取り組んでいる。(中期計画1-2-4-1)

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(5項目)のうち、3項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○研究経費の確保

中期目標(小項目)「研究の方向性と重点的に取り組む領域 基礎的研究の推進とともに、現代社会の諸問題の解決を目指す実践的・応用的研究に積極的に取り組む。」について、教育研究活性化のための予算編成方針を掲げ、第2期中期目標期間(平成22年度から平成27年度)を通じておおむね年20億円前後の研究経費を確保するとともに、学長裁量経費により戦略的な研究支援を行っている。また、科学研究費助成事業の獲得の推進に努め、科学研究費助成事業採択内定率(新規)は平成22年度の18.5%から平成27年度の27.3%へ増加している。

(中期計画2-1-1-1)

○国際的な共同研究の実施及び成果の発信

中期目標(小項目)「医薬理工及び伝統医薬学領域を中心として、国際社会をリードする特色ある先端的研究を行う。」について、和漢医薬学総合研究所は、文部科学省の共同利用・共同研究拠点の期末評価においてB評価であるものの、ほくりく健康創造クラスター事業によって、北陸地域における東西医学融合の国際的なリーダーシップと優位性を確保し、東西医学を融合した国際的な共同研究を実施して、その成果をシンポジウムや論文、和漢薬データベースを通じて世界

へ向けて発信するなど、疾病克服システムの国際研究拠点形成に向けた取組を推進している。（中期計画 2-1-2-1）

○先端的研究の推進

中期目標（小項目）「自然科学、エネルギー及び生命科学の先端的研究を推進する。」について、北陸地域におけるライフサイエンスクラスター事業に参画し、天然薬物等由来の医薬品素材開発や、世界一速い網羅的な抗体探索技術と抗体遺伝子の単離法開発、低炭素社会実現のためのバイオマスエネルギーや、地球温暖化対策に資する水素エネルギー研究等、先端的研究を推進している。

（中期計画 2-1-3-1）

（特色ある点）

○先端医療開発の推進

中期目標（小項目）「研究の方向性と重点的に取り組む領域 基礎的研究の推進とともに、現代社会の諸問題の解決を目指す実践的・応用的研究に積極的に取り組む。」について、附属病院において、平成 25 年度に中部地域の大学の特性を活かした先端医療開発を行う中部先端医療開発円環コンソーシアムへ加盟し、加盟大学との協働によって研究シーズを発掘し、国際水準の臨床研究・治験へつなげ、医療としての実用化を図っている。また、臨床研究推進センターの設置により、先端医療開発から最適な医療の提供まで、すべての臨床試験について一元的に支援できる体制を整備しており、治験実施症例数は増加している。

（中期計画 2-1-1-2）

○若手研究者助成金制度の創設

中期目標（小項目）「研究の方向性と重点的に取り組む領域 基礎的研究の推進とともに、現代社会の諸問題の解決を目指す実践的・応用的研究に積極的に取り組む。」について、学長裁量経費と地元銀行からの外部資金を活用して若手研究者助成金制度を創設し、実践的・応用的研究、次世代を担う若手研究者の研究、創造性に富む萌芽的研究への支援を行うなど、長期的な研究成果を確保する施策を実施している。（中期計画 2-1-1-3）

○地域の特性を利用した地域産学官連携による研究の推進

中期目標（小項目）「環日本海や北陸地域に根ざした研究を推進する。」について、立地の高低差・地熱・地下水・黄砂・和漢薬等の地域の特性を利用した地域産学官連携による研究を推進し、高低差 4,000m 富山環境プロジェクトや、富山の地熱資源を利用した地熱発電の研究、豊富な地下水を利用した地熱ヒートポンプ（Geo-HP）システムを利用した室内冷暖房や道路融雪へ適用する研究、黄砂の健康への影響に関する研究、和漢薬に関する国際共同研究等、多くの成果がある。

（中期計画 2-1-4-2）

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標
(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域社会の発展事業の推進

中期目標(小項目)「産業界、自治体等と連携した社会貢献の推進 産業界や自治体等と連携・協力し、地域社会の発展に貢献する。」について、「地域の人材育成」、「企業等との共同研究、受託研究、教員等によるコンサルティング活動」、「地域のインキュベーション支援」の各事業を推進して地域社会の発展に取り組んでおり、特に産学官連携による次世代スーパーエンジニア養成コースは、地域の産業界のベテラン技術者と大学教員による地域総がかりの事業として、地域企業からの受講生の派遣増加と受講生の高い満足度を得ている。

(中期計画 3-1-1-1)

(特色ある点)

○地域活性化の中核拠点としての取組

中期目標(小項目)「産業界、自治体等と連携した社会貢献の推進 産業界や自治体等と連携・協力し、地域社会の発展に貢献する。」について、地域と世界に向かって開かれた大学として、地方自治体・地元企業と連携し、富山市から職員を地域連携推進員として受け入れ、富山市シティプロモーション事業へ参画している。また、地域課題を共有して課題解決に資する「魚津三太郎塾」の創設を契機に、その成果を市町村の枠を超えて地域移転した「たかおか共創ビジネス研

研究所」の創設、子育てしやすい環境づくりを目指す舟橋村官民連携子育てモデル造成事業の展開等、様々な地域との事業に全学的に関わり、地域活性化の中核拠点となっている。（中期計画 3-1-1-2）

○和漢薬データベースの構築・公開

中期目標（小項目）「地域・社会への貢献 地域・社会への知的サービスを充実させ、蓄積された知や大学の研究成果を生かして、地域の生涯学習等に貢献する。」について、和漢医薬学総合研究所の学術情報を収載した和漢薬データベースを構築・公開し、大学の理念である「人間社会と自然環境との調和的発展への寄与」と目標である「知の東西融合」の実例として、和漢薬を含めた伝統薬物の国際的なハブとしての役割を果たし、国内外の和漢薬研究の活性化と研究の質の向上に取り組んでいる。また、地域産業である和漢薬研究を推進するとともに、和漢薬を実際に体験できるセミナー等を実施し、地域の活性化にも取り組んでいる。（中期計画 3-1-4-3）

（２）国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○海外大学との連携の推進

中期目標（小項目）「国際社会への貢献 国際社会への貢献及び国際協力を促進する。」について、「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」さくらサイエンスプランに採択され、海外の６大学から教員７名、学生５１名、研究者６名を受け入れている。また、文部科学省の大学の世界展開力強化事業「キャンパス・アジア」中核拠点支援に採択され、平成２２年度から平成２６年度に和漢薬領域を基盤とした高度職業人育成事業を実施し、その成果を踏まえ平成２７年度以降は大学の事業として継続実施しており、和漢薬知識のエキスパートかつ薬学領域の専門職を包括的に捉えることができる高度専門職業人の育成に取り組んでいる。

（中期計画 3-2-3-1）

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
(Ⅰ) 教育に関する目標			おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標			おおむね良好	
教育の方針 入学者受入方針に沿って、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針を策定する。			おおむね良好	
1-1-1-1	教育の方針 入学者受入方針に沿って、学士課程及び大学院課程における学位授与の方針を策定し、それぞれの教育目標と達成水準を明確化する。		おおむね良好	
教育課程 1) 学士課程 教養教育においては、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するとともに、専門教育との有機的連携を図る。			おおむね良好	
1-1-2-1	教育課程 1) 学士課程 教養教育においては、地域の特色を活かした教育を推進するとともに、3キャンパスの教育内容の特徴を活用して、教養科目の充実と学生間の交流を図る。		おおむね良好	
専門教育においては、専攻する学問分野の基本的知識、技能、問題解決能力、創造性、チームワーク、生涯学習力を培い、多様な分野の職業人を養成する。			おおむね良好	
1-1-3-1	専門教育においては、教育理念、教育目標と達成水準に基づいて、教育カリキュラムを作成・実施する。		おおむね良好	
大学院課程 幅広い知識を基盤にした高い専門性を培い、高度専門職業人、あるいは教育研究者として、学術研究の進歩や地域・国際社会に貢献できる人材を育成する。			良好	
1-1-4-1	大学院課程 現代社会の諸問題に対応できる高い見識と広い視野を持つ人材を育成するために、人文・社会・芸術系の大学院を整備し、社会人枠を含め大学院教育の充実を図り、領域横断的な教育やキャリア教育を推進する。		おおむね良好	
1-1-4-2	医薬理工系の大学院では更に整備を進め、創造的な問題解決能力のある人材を育成するために、大学院教育の充実を図り、領域横断的な教育やキャリア教育を推進する。		非常に優れている	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点	
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
	教育方法 1) 学士課程 学生の学習意欲を高め、目的意識を持った主体的学習態度を培う。		おおむね良好		
	1-1-5-1	教育方法 1) 学士課程 自学自習の姿勢や課題探求・問題解決能力を育成するために、少人数教育、対話型教育などを重視し、きめ細かな教育を推進する。	おおむね良好		
	学生の学力、希望や将来に配慮した効果的な教育方法を導入する。		おおむね良好		
	1-1-6-1	必要な分野においては、補習授業などで適切な授業ができるように、教材や授業方法の開発・実施を推進する。	おおむね良好		
	キャリア形成支援のための教育方法を構築する。		おおむね良好		
	1-1-7-1	社会の現場で活用できる実践的な能力・技能を育むために、実社会における課題に関連した科目設定など、キャリア形成支援のための教育を充実させる。	おおむね良好		
	大学院課程 高度な専門性に加えて現代社会のニーズに応える課題設定・課題解決能力を育む教育機会を充実させる。		おおむね良好		
	1-1-8-1	大学院課程 国際水準の研究者や社会人講師による講義、インターンシップなどを通して、大学院教育を充実させる。	おおむね良好		
	成績評価 学位の質を保証するために、適切な成績評価を実施する。		おおむね良好		
	1-1-9-1	成績評価 成績評価方法の現状分析と問題点の検討を行い、達成目標の実現にふさわしい成績評価方法のあり方を探究し、成績評価の改善を図る。	おおむね良好		
	② 教育の実施体制等に関する目標			良好	
	教職員の配置 質の高い教養教育とそのための責任ある実施体制を確立する。		おおむね良好		
1-2-1-1	教職員の配置 共通教育センターを中心とした教養教育の実施体制を整備し、教養教育の充実を図る。	おおむね良好			
1-2-1-2	本学における外国語教育の現状を分析し、ふさわしい外国語教育を行うための体制を検討し、整える。	おおむね良好			
質の高い専門教育の実施体制を整備する。		良好			
1-2-2-1	質の高い専門教育を行うために、適切な教育組織の整備を進める。	良好	優れた点		

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	教育環境の整備 学生の視点に立った教育環境の整備を推進する。		良好	
1-2-3-1	教育環境の整備 留学生や障害のある学生にも配慮して教育環境の整備・充実を図る。		良好	
1-2-3-2	情報通信技術（ＩＣＴ）などを活用した、主体的学習環境の充実を図る。		良好	
1-2-3-3	大学の教育方針や利用者のニーズに依拠した図書館の環境整備を進め、電子図書館機能の整備・充実を図る。		おおむね良好	
1-2-3-4	インターネットを利用した遠隔学習を整備・推進する。		良好	
	教育の質の改善のためのシステム等 教育の質を不断に改善するためのシステムを整備する。		良好	
1-2-4-1	教育の質の改善のためのシステム等 高等教育機構を中心に各学部が連携・協力して、FD、学生による教育評価、就職先による卒業生の評価を行い、その結果を参考に教育の改善を図る。		良好	特色ある点
③ 学生への支援に関する目標			おおむね良好	
	学習支援及び生活支援 学生の主体的な学びを促し、学生の多様なニーズに対応した修学支援体制を整備する。		おおむね良好	
1-3-1-1	学習支援及び生活支援 カリキュラムについて十分なガイダンスを行うほか、学習と学生生活について、助言教員制度などを積極的に活用し、きめ細かな指導・助言を行う。		おおむね良好	
	充実したキャンパスライフを送ることができるよう、学生の実態に即した学生相談・生活支援体制の充実を図る。		おおむね良好	
1-3-2-1	留学生との混住型を採用し、学寮の改修・整備を図る。		おおむね良好	
1-3-2-2	学生相談窓口体制や学生への経済的支援制度を充実する。		おおむね良好	
	就職・進路支援 キャリア形成の支援を図り、学生が目指す目標（「就職・進路」）の実現を支援する。		おおむね良好	
1-3-3-1	キャリア形成を軸とし、卒業後の進路設計を見据えた総合的な支援に取り組む。		おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		良好	
研究の方向性と重点的に取り組む領域 基礎的研究の推進とともに、現代社会の諸問題の解決を目指す実践的・応用的研究に積極的に取り組む。		良好	
2-1-1-1	研究の方向性と重点的に取り組む領域 基盤的研究経費の安定的確保を維持し、基礎的研究を推進する。	良好	優れた点
2-1-1-2	新しい医薬品の創成、診断・治療法の開発、臨床研究などトランスレーショナルリサーチを促進する。	良好	特色ある点
2-1-1-3	学長裁量経費を活用し、実践的・応用的研究、若手研究者の研究及び創造性に富む萌芽的研究を支援する。	おおむね良好	特色ある点
医薬理工及び伝統医薬学領域を中心として、国際社会をリードする特色ある先端的研究を行う。		良好	
2-1-2-1	21世紀COEプログラム（東洋の知に立脚した個の医療の創生）を継承しつつ、東西医薬学融合に関わる国際水準の研究を推進する。	良好	優れた点
自然科学、エネルギー及び生命科学の先端的研究を推進する。		良好	
2-1-3-1	新素材、ICT、次世代エネルギー（核融合、水素エネルギー）、生命科学、環境科学などの分野において、世界に発信できる先端的研究を推進する。	良好	優れた点
環日本海や北陸地域に根ざした研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-4-1	経済・社会・文化活動に関わる研究を推進し、「東アジア共生課題」の研究分野の拡充を図る。	おおむね良好	
2-1-4-2	地域の特性に根ざした特色ある研究を推進する。	良好	特色ある点
研究成果の社会への還元 地域や産業界との連携を深めながら、社会の要請に応える研究活動を展開し、研究成果を広く還元する。		おおむね良好	
2-1-5-1	研究成果の社会への還元 民間企業や自治体・高等教育機関との共同研究・受託研究やプロジェクト研究などを推進する。	おおむね良好	
2-1-5-2	地域社会の活性化や産業・芸術・文化の発展に寄与する実践的な研究を推進する。	おおむね良好	
2-1-5-3	研究成果を活用して、公開講座、研究会、講演会等の開催や広報活動を積極的に行う。	おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね良好	
研究環境の整備 本学の特色と構成員の創造性が発揮される研究環境を整備する。			おおむね良好	
2-2-1-1	研究環境の整備 博士課程修了後のポスドク採用枠を設置し、若手研究者の育成を図る。		良好	
2-2-1-2	サバティカル研修制度を導入し、研究に専念できる時間を確保する。		おおむね良好	
各学部、研究部等が共同して使用する研究設備や機器などの研究環境を計画的に整備する。			おおむね良好	
2-2-2-1	学術研究用設備整備マスタープランの検証・見直しを行い、研究設備や機器などの研究環境の整備を推進する。		おおむね良好	
国内外と連携した研究実施体制 学内、地域、国内外の研究組織等と連携して研究を推進する体制の整備を進める。和漢医薬学総合研究所は、共同利用・共同研究拠点としての使命を遂行する。			おおむね良好	
2-2-3-1	国内外と連携した研究実施体制 学内、地域、国内外の研究組織等との連携を推進し、人的交流や共同研究をさらに発展させる。和漢医薬学総合研究所は、共同利用・共同研究拠点としての使命を遂行するため、研究体制の充実を図る。		おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標			おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標			おおむね良好	
産業界、自治体等と連携した社会貢献の推進 産業界や自治体等と連携・協力し、地域社会の発展に貢献する。			良好	
3-1-1-1	産業界、自治体等と連携した社会貢献の推進 産学官連携の促進により、地域の活性化につながる人材育成、共同研究、受託研究、コンサルティング、インキュベーション事業等を推進する。		良好	優れた点
3-1-1-2	自治体等と連携し、地域の発展のための施策の企画・立案・実施を推進する。		非常に優れている	特色ある点
3-1-1-3	大学の研究シーズを発掘し、知的財産マネージャーや産学連携コーディネーターによるリエゾン活動を推進する。		おおむね良好	
3-1-1-4	産学官が有機的に連携したフォーラム等の事業を推進する。		おおむね良好	
地域の教育機関、医療機関、福祉施設との連携 地域の教育機関等と連携し、教育研究の交流を推進する。			おおむね良好	
3-1-2-1	地域の教育機関、医療機関、福祉施設との連携 地域の高校と連携した公開授業や小中学生を対象にした小中学生講座を開設し、地域の教育機関との連携を推進する。		良好	
3-1-2-2	北陸地区の高等教育機関と連携した教育研究を推進する。		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	各種の医療機関や福祉施設と連携・協力して地域社会に貢献する。		良好	
3-1-3-1	地域の医療機関や福祉施設と連携した人材育成を推進する。		良好	
	地域・社会への貢献 地域・社会への知的サービスを充実させ、蓄積された知や大学の研究成果を生かして、地域の生涯学習等に貢献する。		おおむね良好	
3-1-4-1	地域・社会への貢献 毎年60講座以上の公開講座を開き、各教育部、各学部開設授業のうち、公開可能な科目の1/2以上をオープンクラス（公開授業）として公開する。		おおむね良好	
3-1-4-2	研究成果等のデータベース化及び公開を推進する。		おおむね良好	
3-1-4-3	伝統医薬（和漢薬）の正しい理解と普及を推進する。		良好	特色ある点
3-1-4-4	生涯学習講座・研究会の講師等を通じて、地域社会に貢献する。		おおむね良好	
② 国際化に関する目標			おおむね良好	
留学生交流の推進 海外からの留学生の受け入れを促進する。			おおむね良好	
3-2-1-1	留学生交流の推進 外国語ウェブサイトの充実、大学院生の秋季入学、海外拠点の活用などにより、留学生の受け入れを促進する。		おおむね良好	
3-2-1-2	日本語・日本事情教育、生活支援、英語による大学院講義、構内英語表示など留学生の教育研究の充実・整備を進める。		おおむね良好	
3-2-1-3	留学生を対象にしたインターンシップなどの就職支援に取り組み、卒業後のフォローアップの充実を図る。		良好	
教員や学生の海外留学を促進し、国際的に活躍できる人材を育成する。			おおむね良好	
3-2-2-1	教員は海外研修等により、日本人学生は交換留学生制度や短期語学研修により、積極的に国際社会で活躍することが可能となるような研鑽機会を提供する。		おおむね良好	
国際社会への貢献 国際社会への貢献及び国際協力を促進する。			おおむね良好	
3-2-3-1	国際社会への貢献 海外の学術交流協定機関との学生・研究者の相互交流・研究協力や国際シンポジウムの開催・展示等により、国際的教育・研究協力の充実を図る。		良好	優れた点
3-2-3-2	交流協定大学に設置した本学ブランチ等を海外拠点として活用する。		おおむね良好	
3-2-3-3	国際協力組織や機関と連携し、国際貢献活動や人材育成を推進する。		おおむね良好	